

(別紙様式)

# 中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

## 事業実施計画

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和6年度)

### 計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

福岡県

## 1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	〇過疎化、高齢化の進展に伴う集落コミュニティの機能の低下、土地改良施設等の維持管理体制の弱体化。
事業実施の基本方針	〇県民に農地や土地改良施設が有する多面的機能に対する理解促進を促し、維持保全活動の必要性を啓発し地域活動を活性化するために、本事業による啓発、支援事業を実施する。
計画後の目指す姿	〇地域住民等の共同活動の強化、集落機能の活性化により、農地や土地改良施設が有する多面的機能を将来にわたって維持増進する。 〇農地等が有する多面的機能に対し、県民の理解がすすみ、農業・農村の役割の再認識につなげることで、本県農業の持続的な発展、県民の健康で豊かな生活の向上を図る。

## 2. 事業計画

事業名	事業内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業内容	総事業費 (単位：千円)					
調査研究事業	〇地域住民活動の活性化を通じた土地改良施設や農地の機能強化・保全に関する基本的対策等の作成及びこれに要する調査。 〇土地改良施設や農地の機能保全に資する工法等の研究。		ふる水第3-2-(1)	〇中山間地の農業体験交流や、生き物調査などに積極的に取り組む地域を対象として、その取組の方法や成果を取りまとめた事例集を作成する。	0					
研修事業	〇上記事業の調査の実施、地域住民活動の活性化に関する推進指導及び助言等を行う人材の育成を行う事業。		ふる水第3-2-(2)	〇中山間地域の活性化に向けた取り組みを行う組織からの要望に対し、専門の「地域おこしマイスター」を派遣していく。 〇保全対策事業を通じた地域住民活動の活性化に関する推進指導及び助言を行う「ふるさと水と土指導員」の育成を目的として、地域リーダーを全国研修に派遣する。	786					
推進事業	〇地域住民活動の活性化に関する推進指導、啓発・普及活動。	①②	ふる水第3-2-(3)	〇中山間ふるさと水と土保全対策事業の実施計画についての審議を行う委員会、町と村ネットワーク会員から応募された、農村地域活性化のための都市と農村交流企画の審査・助言を行う福岡県農山漁村活性化検討委員会を開催する。 〇福岡県農業・農村振興条例の基本理念の実現に向け、広範な県民の参加による活動を推進するため、メーリングリスト、会員募集、企画公募などを活動していく。 〇まちむらネットワーク会員（地域住民組織）が、農地や土地改良施設を利活用し、農業・農村体験会など農村地域集落共同の活性化や農業用施設の役割、農業の持つ多面的機能啓発のために行う活動に対する支援を行っていく。 〇都市と農村の共生社会づくりを推し進めるため、都市と農村で1対1のパートナーシップを構築し、持続的・発展的交流活動を行う団体に対する支援を行っていく。 〇都市と農村の交流を深めるため、中山間地域に関する情報を発信していく。また、地域資源や荒廃農地等の情報を地図情報で管理し農山村地域振興施策の基礎資料とする。 〇都市部の住民を巻き込んだ中山間応援サポーター登録の推進により、中山間地域のサポート体制を強化し、農地保全と地域活性化を図る。 〇農業用施設の見学、間作を通じ、農業や農村の持つ多面的機能の啓発を行っていく。 田んぼの学校：田植え体験、田んぼの生き物調査（県内4校）を実施する。	13,586					
保全ネットワーク事業	〇都市住民等の保全活動への参加推進を図るために実施する事業。	②	棚田第3-2-(1)	〇都市部の住民を巻き込んだ中山間応援サポーター登録の推進により、中山間地域のサポート体制を強化し、棚田地域における保全活動を支援していく。 〇棚田の持つ多面的機能や棚田が育む豊かな環境の重要性について、一般県民を対象に啓発イベント（棚田パネル展示、啓発ポスター配布、棚田まつり）を実施する。	4,828					
保全活動推進事業	〇住民組織が行う保全活動の推進を図るために実施する事業。		棚田第3-2-(2)	〇県内の棚田の中で保全活動のモデルとなる地区について、棚田の保全の啓発活動に使用する。	1,987					
保全活動支援事業	〇住民組織が行う保全活動に要した経費等の助成を行う事業。	①	棚田第3-2-(3)	〇まちむら交流会員（地域住民組織）によって棚田等の保全を行う活動に対する支援を行っていく。	816					
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水と土基金）				計画事業費	15,227	16,036	15,912	13,329	14,372	
				(実績額)	7,182	7,970	11,743	9,251	—	
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）				計画事業費	8,069	5,934	5,971	5,407	7,631	
				(実績額)	1,549	1,525	2,439	2,296	—	

### 3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
<p>① ○農地や土地改良施設が有する多面的機能を将来にわたって維持増進するために、地域住民等の共同活動の強化、集落機能の活性化を図る。 ○農地等が有する多面的機能に対し、県民の理解がすすみ、農業・農村の役割の再認識につなげることで、本県農業の持続的な発展、県民の健康で豊かな生活の向上を図る。</p>	まちむら交流事業の参加者数	20,000	40,000	2,891	5,941	16,689	9,281	—	令和5年度末 54,802人 令和5年度5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことから、都市農村交流の動きは活発化している。 前年度から継続して支援している交流事業については、平均交流人口が増加した。(R5年度485人、R4年度420人)	※目標値は年度ごとの参加者数の累計数。
	中山間応援サポーター活動参加者数		200	71	200	159	204	—	令和5年度 204人 令和3年度 活動回数：11回 令和4年度 活動回数：12回 令和5年度 活動回数：15回	※目標値は単年度の参加者数。

### 4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
<p>① ○農地や土地改良施設が有する多面的機能を将来にわたって維持増進するために、地域住民等の共同活動の強化、集落機能の活性化を図る。 ○農地等が有する多面的機能に対し、県民の理解がすすみ、農業・農村の役割の再認識につなげることで、本県農業の持続的な発展、県民の健康で豊かな生活の向上を図る。</p> <p>②</p>	<p>○「田んぼの学校」事業は非常に良い取組み。より多くの子どもたちが農村、食育を体験できるように予算の増額などの見直しが必要。 ○都市部など地域外の人をもっと農村に入れる仕組み作りが必要。 ○中山間地域の活性化をはかるため、地域おこし協力隊との連携を取り入れてはどうか。</p>	<p>○「田んぼの学校」については田植え・稲刈りとも期間が限定されることや受入先やバスの確保などから参加校（参加児童）を増やすことは難しい。しかし、田植えや稲刈り体験を通じて農業や農村の役割を小学生に伝える事業は引き続き実施していきたい。</p>	